

提 案 書 要 約

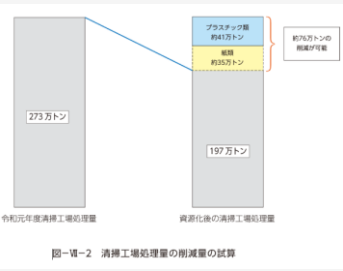
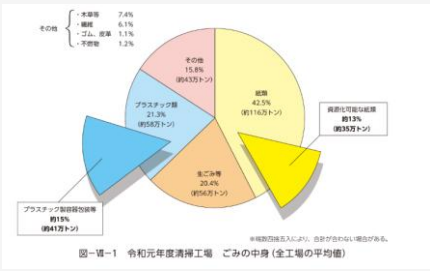
- 1 事業名称IoT・動画活用によるプラごみ分別行動の促進　－オフィスサーキュラープラスチックの実現に向けて－
- 2 申請者名株式会社ごみの学校

3 内 容

（1）目的・位置付け

東京都内では資源化できるプラスチックが焼却処理されている実態がある。

清掃工場への搬入ごみではプラスチック類が21.3%を占め、資源化可能なプラスチックも多く含まれる。



資源化可能なプラスチック 約41万トン | 紙類と合わせた削減余地 約76万トン

一方、オフィスでは国籍・職種・利用頻度が異なり、建物ごとに分別ルールも変わる。貼紙や研修だけでなく、捨てる瞬間に直感的な案内と成果を返す仕組みが必要である。

（2）取組内容

オフィス共用部にセンサー・モニタータイプの分別啓発装置を設置し、分別方法や投入量、CO₂・コスト削減効果をリアルタイムで表示する。現状調査から装置の企画・設置、効果測定までを行い、従業員の正しい分別行動を促すとともに、他オフィスへの展開に向けてガイドライン化する。回収したプラスチックはノベルティに再商品化してオフィスへ還流させ、分別行動と成果を可視化することで継続的な参加意欲を高める。



参考：センサー・モニタータイプの分別啓発装置

平常時は「何を、どこへ捨てるか」を動画で表示。投入後は重量や削減効果を示し、行動の意味をその場で理解できるようにする。取得データを用いて表示内容や設置方法を改善する。

① 見る
ピクトグラム・動画で分別方法を伝える

② 捨てる
重量・投入をセンサーで検知

③ 実感する
CO₂・コスト等の効果を即時表示

実証 → 効果測定 → 改善 → ガイドライン化

管理者の声かけに頼らず、
日常動線の中で分別行動を定着

（3）回収したプラスチックのオフィス利用

分別で終わらせず、製品としてオフィスへ還流する仕組みも作る



「自分の分別が形になって戻る」ことで、行動と成果を結びつける

回収するだけで終わらせず、分別プラスチックをマテリアルリサイクルし、従業員向けノベルティとして還流する。目に見える成果が、継続参加の動機になる。



（4）期待される効果

分別

異物率・回収量

分別精度を高め、
焼却量を削減

行動

利用回数・理解度

多言語・非言語で
広く訴求

循環

再商品化量

行動と成果を結び、
継続参加を促進

展開

改善知見

再現性あるモデルを
他拠点へ横展開

日々の中での運別意識を高め、リサイクル率の向上に寄与する

（5）実施体制

ごみの学校

事業統括・企画・効果検証・還流設計

商業施設

実証フィールド提供・現場ヒアリング

ATURAERU／ソリッドラボ

動画・アニメ制作／IoT・表示システム開発